



特定非営利活動法人 生物試料分析科学会
理事長 渭原 博

この度、特定非営利活動法人生物試料分析科学会の理事長に選任され、任期2年間の理事長をお引き受けすることに致しました。本会は生物試料を材料として、その中に含まれる様々な物質を正確に測定できるようにするための、技術的、学問的開発を目的として設立された学会です。

学会の沿革をご覧いただければその生い立ちと現状をご理解いただけると思いますが、臨床検査医学を基盤に設立された学会ではありますが、動物試料分析、食品分析、環境分析、分子生物学的分析を含めた、多くの分野を対象としていることを是非ご認識いただきたく思います。

活動の中心は学会誌を発刊することと、年一回の年次学術集会ならびに全国7支部の学術集会を実施することです。これに加え、平成22年度からは認定制度を開始し、分析に携わる技術研究者のさらなる研鑽、研修の場として、ご利用いただけますよう活動の幅を広げようとしています。

学会誌（生物試料分析）は年間5冊を発刊しており、1号は年次学術集会の抄録集として1～2月に、そして特集、総説及び原著論文を掲載する2号（3月末）、3号（6月末）、4号（9月末）、5号（12月末）を刊行しています。また、英文誌（International Journal of Analytical Bio-Science）を年4号刊行しています。

和文誌に掲載された論文は、医中誌 Web（医学中央雑誌）、国立情報学研究所の CiNii Articles で検索ができます。英文誌に掲載された論文は、医中誌 Web に加え、世界的な学術論文検索サイト（Chemical Abstracts Service、Google Scholar、Index Copernicus Journal Master List、Global Impact Factor、Universal Impact Factor）にも掲載されており、内容は世界に発信されています。なお、NCBI（National Library of Medicine）の NLM catalog（NCBI Databases）に登録されていますが、残念ながら、論文掲載には至っておりません。

認定制度「分析機器・試薬アナリスト」は黎明期にありますが、今ある学問を伝授するだけの講習会ではなく、現状の問題点を明確にし、どの様に解決するかを認定機構内の委員会で討議し、より必要な技術・学問を考案し、啓発していけるような認定制度にして行きたいと考えています。

関係領域で仕事をされておられる皆さまには、是非とも本学会にご入会いただきたく存じあげます。そして会員の皆さまにとって、多様な面で利用していただける活性化された学会に成長して行けますよう尽力してまいります。常任理事会を中心に奮励努力するつもりでおりますので、会員の皆様には、今まで以上のご支援・ご指導をお願いいたします。

平成29年2月14日記